

# The National Conference of Community Cinemas 2011 in Hiroshima

全国コミュニティシネマ会議 2011 イン 広島

2011年9月2日(金)・3日(土)

会場:

■ 広島市映像文化ライブラリー

住所 広島県広島市中区基町 3-1

Tel: 082-223-3525 HP: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/eizou/>

■ アステールプラザ 中ホール

住所 広島県広島市中区加古町4-17

Tel: 082-244-8000 HP: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/naka-cs/>

(添付会場案内図参照)

参加費:

会議 2,000 円

- ※ 9月2日、3日共に参加可。一部のみの参加も同じ。映画上映は含まれません。
- ※ コミュニティシネマセンター会員は会議のみ無料です。(1団体2名まで)
- ※ 広島市在住の団体・個人は会議のみ無料 (要申込・お問合せは広島市映像文化ライブラリーまで)
- ※ 定員 200 名

レセプション 3,000 円

映画上映 1プログラム 500 円

主催: 広島市映像文化ライブラリー/一般社団法人コミュニティシネマセンター  
文化庁(9月1日のワークショップ「高校生/中学生に映画を見せたい!」のみ)

申し込み締め切り 8月26日(金)

参加を希望される方は、別紙の申込用紙にご記入の上、

8月26日(金)までにファクシミリ(FAX.03-3461-0760)にてご送付ください。

ご出席申し込みに対しては、折り返し確認書をお送り致します。

- ※ 内容(出演者等)は変更になる場合がございます。ご了承ください。
- ※ 定員を越えた場合、お申込を受けられない場合がございます。ご了承ください。

お問い合わせ

コミュニティシネマセンター TEL:050-3535-1573 FAX:03-3461-0760 <http://www.jc3.jp>

## シネマエール東北～映画の可能性を信じて

3月11日の東日本大震災から、まもなく5ヶ月。  
あのとき、まだ、雪が降っていた被災地も春がすぎ、  
いまは、瓦礫の中にも雑草が生い茂り、夏の太陽がふりそそいでいます。  
東北の上映者は、震災後、すぐに、被災地で映画の移動上映を始めました。  
コミュニティシネマセンターが、「映画応援団-シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」  
を本格的にスタートしたのは、震災から2ヶ月が経過した後のことです。  
私たち、コミュニティシネマにできること、やるべきことは、映画を上映すること、映画を届けることしかない。  
全国の上映者、映画ファンの皆様のご支援をいただいて、  
5月末に上映をスタートし、6月、7月と、40回を超える上映会を行いました。  
被災地に映画を届けることは、映画を上映することの「原点」に立ち返るような経験でもありました。  
どんな映画を、どこで、どうやって、どんなふうに見てもらおうか。  
あれこれと考え、映画をみた後のお客さんの笑顔や、「ありがとう」という言葉に勇気づけられる。

今回のコミュニティシネマ会議では、  
「シネマエール東北」の3ヶ月の活動をご報告するとともに、  
これから、復興してゆく町の中で、映画に何ができるのかを、皆さんとともに、考えたいと思います。

二日目には、高齢化が進む映画館やシネマテークに、いかにして若い観客を呼び込むかを、  
真剣に考えるプログラムを用意しています。

会場は、広島です。フィルムライブラリー、国際映画祭、そして充実したミニシアターがある「映画の  
まち 広島」での全国コミュニティシネマ会議にどうぞご参加ください。

### 「全国コミュニティシネマ会議」

この会議は、さまざまな場で“映画を見せること”を行っている人々の情報交換と研究討議の場として、1996年から毎年会場を変えながら開催しており、今年で開催で16回目となります。ミニシアターを中心とした興行関係者や、フィルム・アーカイブやライブラリーなど公立の映画専門施設(シネマテーク)関係者、映画祭関係者、公共ホール・美術館・図書館の映像担当者、シネクラブの主催者、自主上映団体、独立系配給会社等々、例年150人をこえる参加者を得ています。映画の上映に興味のある方ならどなたでも自由にご参加いただけます。

## プログラム

※ 出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

9月2日[金] 会場：アステールプラザ 中ホール

13:00-13:15 主催者挨拶

コミュニティシネマセンター活動報告

13:15~15:00

基調報告「映画応援団—シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」

「シネマエール東北」がスタートして2ヶ月、岩手、宮城、福島を中心とした地域で40回を超える上映会を開催してきた各県の上映団体に、それぞれの上映活動を報告していただきます。避難所での上映、被災地の小中学校や児童館での上映会の子どもたちの表情、変化していく被災地の様子…映画とともに被災地をみてきた人たちによるレポートです。

報告者：

みやこシネマリン[岩手県担当] 櫛桁一則（支配人）

NPO法人20世紀アーカイブ仙台[宮城県担当] 坂本英紀（理事長）/佐藤正巳（理事）

山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク[福島県担当]

宮沢啓（山形県映画センター）/高橋卓也（山形国際ドキュメンタリー映画祭）

コミュニティシネマセンター[東京事務局]

このほか、東北三県の映画館やシネマテーク、映画祭などの現状もご紹介する予定です。

15:15~17:00

ディスカッション「映画に何ができるのか」(仮題)

映画に何ができるのか——シネマエール東北では、映画を「上映する」ことで、人々に映画を届けるという活動をしています。「上映する」以外にも、映像で、被災地を「記録」し、記憶を残そう（アーカイブ）としている人たちがいます。被災地を撮り続ける作り手たちもいます。こういった活動と連携することで、映画は、より大きな可能性を持ちうるのではないのでしょうか。

映画以外の、様々なアートに関わる多くの人たちも、東北で活動しています。映画を含むアートには、本当に人々の心を癒し、元気づけることができるのでしょうか。

新しいまちづくりの中で、映画は、どんな役割を担うことができるのでしょうか。

パネリスト

立木祥一郎(司会/tecoLLC)

東北大学文学部卒。川崎市市民ミュージアム映像部門学芸員として映画製作、国際映画祭などの企画。1994年から青森県立美術館準備室学芸員として美術館建設基本計画の策定、建築設計のほか、奈良美智、寺山修司ら現代美術や映像のコレクションを担当。同時期に弘前市の吉井酒造煉瓦倉庫で奈良美智展の企画を実施。2008年、クリエイターによる地域活性化をミッションとする、tecoLLCを設立。

甲斐賢治(せんだいメディアテーク企画・活動支援室室長)

NPO法人記録と表現とメディアのための組織(remo)、アートNPOリンクほか、複数のNPOに参加。せんだいメディアテークでは復旧・復興のプロセスを独自に発信、記録する「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設。さまざまなメディアを活用し、収録された映像、写真、音声、テキストなどを「震災復興アーカイブ」として記録保存、配信している。また、アートNPOリンクでは、被災地のアーティストやアートNPOによる復興に向けた取り組みや、活動再開を支援する活動を行っている。

### 吉見俊哉 (東京大学大学院情報学環教授)

1957年生まれ、社会学者。東京大学教養学科を卒業後、同大学大学院社会学研究科で学ぶ。同新聞研究所助教授、同社会情報研究所教授等を経て、2004年より現職。2006年4月から09年3月まで同学環長。2010年より同大学総合教育研究センター長、教育企画室長。専攻は社会学、都市論、メディア論、文化研究。著書に『都市のドラマトゥルギー』『博覧会の政治学』『メディア文化論』『親米と反米』『ポスト戦後社会』など。

### 小野田泰明 (東北大学大学院工学研究科教授)

1998-99年、UCLA 客員研究員。建築のハードとソフトをつなぐ新しい職能である建築計画者として「せんだいメディアアテーク」の他、各地で先駆的プロジェクトに関わる。現在、建築家による震災復興ネットワーク「アーキエイド」の実行委員としていくつかの被災地の復興計画にかかわっている。劇場・ホール研究で1996年日本建築学会奨励賞、熊本県苓北町民ホールの設計で2003年日本建築学会賞受賞(阿部仁史氏と共同受賞)。著書に『オルタナティブ・モダン』(共著、TNプロープ)、『プロジェクト・ブック』(共著、彰国社)など。

ほか検討中。

## ■ 17:10~18:45

### プレゼンテーション: 広島のコミュニティシネマ

プレゼンテーションに先立ち、日本で最も早く設立された地域のフィルム・アーカイブ「広島市映像文化ライブラリー」の映画コレクションの中から、貴重な映画を上映します。

### 広島・長崎における原子爆弾の影響 EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB ON HIROSHIMA AND NAGASAKI

1946年 日本映画社 白黒 監督/伊東壽恵男、小畑長蔵、奥山大六郎、山中真男

1945年9月、日本映画社のスタッフが広島、長崎に入り、学術調査団に同行して被爆の惨状をフィルムに収めた。占領軍の管理下での完成、GHQによるフィルムの接收、21年後の返還という数奇な運命をたどった、映像によるヒロシマ、ナガサキの貴重なドキュメント。広島市映像文化ライブラリーは、2009年に、東京国立近代美術館フィルムセンターと日映映像の協力を得て、米国立公文書館(NARA)所蔵の原版から、本作品の日本語字幕付きの35mmプリントを作成した。(部分上映)

### [1] 広島市映像文化ライブラリー

広島市映像文化ライブラリーは、日本映画等の収集・保存・上映、レコード・CDなどの音楽資料を収集・保存する専門施設として、地方自治体として初めて、1982年に開館しました。現在、日本映画史上の名作をはじめ、広島にゆかりのある作品、平和をテーマにした作品等を約600点所蔵し、シネマテークとして連日上映、年間5万人の観客を得ています。

### [2] 八丁座

2010年秋、広島市の中心市街地にあるデパート「福屋八丁堀本店」8Fに新しい映画館「八丁座」が開館しました。「サロンシネマ」「シネツイン」などミニシアターを運営する秩序破急がつくった、この映画館、椅子の形、様々なインテリアデザイン、ロビーの装飾、扉のデザインや照明、館内アナウンスに至るまで、様々な工夫が凝らされています。映画館好きには見逃せない新名所が生まれました。

### [3] シネマ尾道

2001年に1館だけ残っていた映画館が閉館して、映画館がない状態が続いていた尾道に映画館を復活させようと、2004年に「尾道に映画館をつくる会」がつくられ、4年間の活動を経て、2008年10月「シネマ尾道」(駅前の旧尾道松竹をリニューアル)が開館しました。人口15万人の町尾道でNPOが運営する映画館です。

### [4] 広島国際アニメーションフェスティバル

1985年に第1回が開催され2010年に25周年を迎えた広島国際アニメーションフェスティバル。国内で最も古い本格的な国際映画祭です。世界中から応募されるコンペティション部門に加え、数多くの充実した特集プログラムが生まれ、新しい才能発掘の場としてのマーケット部門や子ども達アニメーション制作を体験できる部門もあり、2010年には3万4516人が来場しました。

## ■ 19:00- レセプション

## 9月3日[土] 会場：広島市映像文化ライブラリー

二日目のプログラムは、「映像教育」を取り上げます。

コミュニティシネマセンターでは、2004年の映画上映ネットワーク会議（現全国コミュニティシネマ会議）で“映画教育”をテーマとして以来、調査研究や実践、ディスカッションなどで、たびたび映画教育や「子どもと映画」プログラムを取り上げてきました。今年度は、その対象を「高校生」とし、若年層のための鑑賞プログラムを共同で策定し、実践するワークショップが進行中です。今回の会議では、ヨーロッパシネマの協力を得て、ヨーロッパの映画館やシネマテークで行われている映画教育プログラムの現状、とりわけ若い観客を育成するためのプログラムの現状を聞くと同時に、現在、進行中の「高校生のための映画館」（仮題）プロジェクトの中間報告を行います。

### ■ 10:00～11:00

**講義：ヨーロッパにおける映画教育の現在（仮題）**

**講師 イアン・クリスティー Ian Christie**

ロンドン大学、パークベック校の映画・メディア史教授。

マイケル・パウエル、エメリック・プレスバージャー、マーティン・スコセッシの作品研究書や、映画発展に関する著書がある。99年より、マイケル・グラントと共に国際的批評誌のFilm Studiesを発行。ヨーロッパシネマ副代表。2005年よりヨーロッパシネマとシネテカ・ディ・ボローニャ共催の「若い観客育成のためのセミナー」で、基調講演・ファシリテーターを担当。セミナーでは「世代の挑戦」「印象を深める」「創作を通しての教育、注目と成功」といったテーマを取り上げてきた。

### ■ 11:10～12:30

**報告とディスカッション：「高校生のための映画館（仮）プロジェクトの実施について」**

**パネリスト：**

**川村健一郎**（立命館大学映像学部准教授/司会）

1995年1月から、川崎市市民ミュージアム映画部門に勤務、映画の上映および収集、映画資料展示、ワークショップに携わる。2007年4月から現職。

**金沢シネモンド、川崎市アートセンター、シネマテークたかさき、シネマ尾道等**

**海外ゲスト Mathias Holtz マシアス・ホツツ**

ルンド大学にて映画史、文化科学を学び、スウェーデンのアート系映画の配給会社で働いた後、Folket's Hus och Parker (FHP) の番組編成を担当。同社は、900の会員を有する組織で、213の映画館、劇場、遊園地、コミュニティセンターなどが含まれる。会員劇場は、商業的な映画館からミニシアター、年数回しか上映しないホールまで様々であるが、本来は地方の中小映画館を支えるためのネットワークとしてスタートした。シネコンの出現により、映画館の寡占化が進行する中、FHPは3都市の映画館を買い上げ、本格的にデジタル化を進め、ODS（オペラ中継など）を含む番組編成を始めたところ、これが成功、現在は、映画館だけでなく、学校での上映や特別プログラムにも取り組んでおり、09年ヨーロッパシネマから起業家賞を贈られた。

**※コミュニティシネマ会議の開催に先立ち、9月1日にワークショップ「高校生/中学生に映画を見せたい！」を開講します。**

**こちらへのご参加は、コミュニティシネマセンター会員限定・定員30名・申込順とさせていただきます。**

**詳細につきましては添付資料をご参照ください。**

## 映画上映

9月3日[土] 会場:広島市映像文化ライブラリー

13:30~13:50

[1] プレゼンテーション「遠州」発映画製作の展望 榎本雅之(浜松市民映画館シネマイーラ館主)

「遠州」(浜松市とその近隣地区)の市民が中心となって映画作りへの取り組みをスタートしています。原作は中沢けい著「楽隊のうさぎ」。監督は磐田市出身の鈴木卓爾(『ゲゲゲの女房』)。「浜松の映画を作る」ではなく「浜松が映画を作る」をモットーに取り組んでいくプロジェクトを、シネマイーラの榎本さんからプレゼンテーションしていただきます。函館発『海炭市叙景』に続き、シネマ・シンジケートでも全国公開に向け全面的にバックアップしていきます。

14:00~15:15

[2] 広島市映像文化ライブラリーのコレクションより

「ニュース映画に見るヒロシマ、ナガサキ、ビキニ」 53分 白黒

広島市映像文化ライブラリーが所蔵する「朝日ニュース」の中から、被爆から7年後の広島表情や、第五福竜丸事件、原水爆禁止世界大会などについて報じたものを上映し、ニュース映画が伝えたヒロシマ、ナガサキ、ビキニを振り返る。

「二十万の亡霊 200000 Phantoms」 2007年 フランス 11分 カラー 監督/ジャン＝ガブリエル・ペリオ

2007年度文化庁メディア芸術祭アート部門大賞受賞。原爆ドームを写した600枚に及ぶ写真を幾層にも重ね合わせ、戦前から、原爆による壊滅、そして復興した現在までの広島の歴史を静かに浮かび上がらせる。

15:30~17:01

[3] 2011年度シネマテーク・プロジェクト「フレデリック・ワイズマン監督 全作品上映！」※ 日本初上映

2011年のシネマテーク・プロジェクトは、1967年の『チチカット・フォーリーズ』から『ボクシング・ジム』(2010)まで、ワイズマン監督作品全38本からなるフレデリック・ワイズマンレトロスペクティブを実現、11月には監督自身も来日することが決定しています。これに先立ち、『ボクシング・ジム』をプレミア上映します。

『ボクシング・ジム』(2010/フレデリック・ワイズマン/91分)

舞台はテキサス州オースティンのボクシング・ジム。元プロボクサー、リチャード・ロードが16年前に開いたローズ・ジム(ロードのジム)である。そこには年齢・人種・職種・性別などの違う様々な人々がやってくる。大人も子供も男も女も、プロを目指す者もスポーツ好きなアマチュアも体力をつけたい青少年も、医者、弁護士、裁判官、ビジネスマン、移民、それにプロボクサーも。ボクシング・ジムは、人々が出会い、話し、鍛える、人間のるつぽ…。まさにアメリカそのものだ。



お問い合わせ

コミュニティシネマセンター TEL:050-3535-1573 FAX:03-3461-0760 <http://www.ic3.jp>

**The National Conference of  
Community Cinemas 2011 in Hiroshima**  
コミュニティシネマ会議 2011 イン 広島

**参加申込書**

下記にご記入の上、8月26日(金)までにファクシミリにてご返送ください。  
ご出席申し込みに対しては、折り返し確認書をお送りいたします。

**返信先 FAX 番号 03-3461-0760**

所属 (ふりがな) .....

所在地

〒

電話番号

ファックス番号

e-mail アドレス

出席者

[氏名](ふりがな) .....

[所属部署・職名等]

◎ 参加するものにチェックをしてください。

9月2日(金)

13:15~15:00 基調報告

15:15~17:00 ディスカッション

17:10~18:45 プレゼンテーション

19:00~レセプション

9月3日(土)

10:00~11:00 講義

11:10~12:30 報告とディスカッション

映画上映

13:30~13:50 プレゼンテーション 「遠州」発映画製作の展望

14:00~15:15 広島市映像文化ライブラリーのコレクションより

「ニュース映画に見るヒロシマ、ナガサキ、ビキニ」

「二十万の亡霊 200000 Phantoms」

15:30~17:01 「ボクシング・ジム」